

名城 小倉城 の全容を紹介する『小倉城と城下町』が完成しました

小倉城は毛利元就に始まり、細川忠興が天守を築き、城下町を建設しました。細川氏の熊本転封後は譜代大名の小笠原忠真が城主となり、西国の要の城として重要な役割を担いました。また小倉城下町は九州の玄関に位置し、長崎街道の起点として多くの人びとが往来しました。

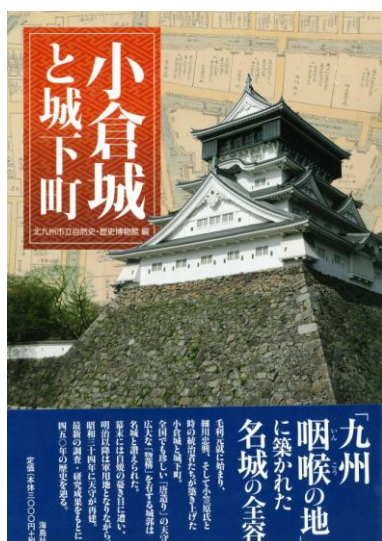
このような小倉城と城下町の重要性に鑑み、北九州市ではその独自の歴史と魅力をわかりやすいかたちで紹介し、多くの人びとに知っていただくための書籍『小倉城と城下町』の刊行を計画し、このたび完成いたしました。

多くの方々に読んでいただくため、今後市内の図書館や学校、市民センターなどに配付します。本書が小倉城を再評価し、郷土の歴史に対する理解と愛着を高める一助となれば幸いです。

【仕様】B5判・ソフトカバー、オールカラー232ページ

【構成】第1部小倉城の歴史、第2部城内の変遷、第3部城下町の変遷、第4部城下町と交通
コラム キリシタン、葡萄酒、小倉織、小倉祇園、小倉鋳物師、朝鮮通信使

【特徴】「九州咽喉の地」に築かれた「名城」小倉城の全容を、①築城から現代までをとおして、②歴代城主の足跡・役割や③本丸・天守など各区域・施設の変遷を中心に、④これまでの発掘調査や歴史資料の調査研究の成果を集成し、わかりやすく解説。



※北九州市内ほかの書店で販売もおこなっています。価格 3,000円（税込3,300円）